

くにみ 議会だより

KUNIMI

1月臨時会
速報版

発行
●国見町議会
編集
●議会広報編集委員会
発行日
●平成27年1月30日
電話
●585-3295

交流の場（道の駅）

造成工事を開始



道の駅の全体イメージ（藤田字日渡一地内ほか）

平成27年第1回議会臨時会が1月29日に開催され、交流の場（道の駅）建設にかかる土地の取得と造成工事請負契約の議案2件が提出され、いずれも全員賛成で可決しました。

今臨時会に提出された議案2件は、交流の場（道の駅）建設用地1万4278平方メートルを所有者10人から1億5167万円で購入すること、用地の造成工事を3億5370万円です。

いずれも議会の議決が必要となるため、臨時会で決定しました。

質疑

土地の値段とその決め方は

問（阿部泰蔵議員）
土地の取得単価とその決め方は。

課長 土地の単価は、市街化調整区域が5700円から7400円、市街化区域が1万9300円から2万8300円。単価の決め方は、町の不動産鑑定結果と国、県の調査を総合的に判断して決めたもの。

造成工事の詳しい内容は

問（渋谷福重議員）
造成工事3億5370万円の内容は。

課長 造成地に残土を搬入し、平らにする工事と、工事費の45割をしめる地下式調整池の設置、よう壁の設置など。

工期内に完了できるのか

問（村上正勝議員）
工事の期間はいつまでか。建物の本體工事が遅れないよう期間内に終われるのか。

課長 工期は平成27年3月31日までだが、復旧復興事業で人や資材が不足しているため、国・県と調整しながら進めたい。

国道の拡幅が遅れる影響は

問（阿部泰蔵議員）
国道の拡幅と並行して進められるが、拡幅工事が遅ればオープン（開通）の時期も遅れるのか。

課長 県道、町道は用地買収が済み、順調に進んでいる。国道は国の予算が不透明だが、進入路を確保し、オープンに合うよう進めたい。

総務文教

教育行政の責任を明確化

1月14日、新教育委員会制度やコミュニケーション・スクールの推進など教育委員会の平成26年度重点事業の調査と修復された岩淵遺跡を現地調査しました。

新教育委員会制度は、教育長と教育委員長を一本化し、教育行政の責任を明確にするものです。新制度では、新設される総合教



修復された岩淵遺跡を調査

で協議・調整するようになりま

なおり、当町の新任教育長は、現教育長の任期終了後の平成30年7月1日からです。重点事業のコミュニケーション・スクールは、12月19日に幼小中を指定し、学校運営協議会を設置しました。今後は内容の充実が求められます。

岩淵遺跡の修復が完了

屋根などのいたみがひどかった町指定文化財「岩淵遺跡」は、882万円をかけ、約40年ぶりに修復されました。

(報告者 志村良男)

産業厚生

農業委員と意見交換

1月15日、国で議論されている規制改革会議の「農業改革」を題材に、町農業委員会の朽木会長ほか3人と意見交換しました。

国の農業委員会改革は、選挙制度の廃止や委員数の半減ですが、町農業委員としては、委員数は適

正であり、公選制は残したほうがいい。また、国の一方的な考えで農家の弱体化が懸念されるのを考えます。

農家の大規模化ではなく、価格の維持が大切で、農産物への付加価値のつけ方が課題ではないか。また、農業協同組合の見直しについては、国からの押し付けではなく、組合員みずから見直しを進めるべきではなどの意見が出されました。

当町の農業改革の課題としては、町基幹産業である農業が



農業委員との意見交換（仮庁舎会議室）

生き残るためにも農業所得を増やすこと、自分で生産から販売までできる新規農業者の確保と拡大、果樹農家の法人化などがあげられました。

国は、農業改革を進めようとしていますが、本当に農家のためになるのか見極める必要があります。議会でも議論し、対応が必要だと思います。

(報告者 渡辺勝弘)